

## 平成21年度第3回高知県森林環境保全基金運営委員会 議事録

1 日 時 平成22年3月19日（金） 10時30分～12時00分

2 場 所 高知城ホール2F会議室

3 出席者 【委員】

根小田委員（委員長）、堀澤委員（副委員長）、川村委員、栗田委員、津野委員、窪田委員、松本委員、山中委員

（出席者8名、欠席委員：田岡委員）

4 配布資料 平成22年度第3回森林環境保全基金運営委員会資料

5 報告事項

1 平成22年度の森林環境税活用事業予算について

2 その他

6 林業環境政策課長あいさつ

- ・ 本日は、年度末のお忙しい中、第3回森林環境保全基金運営委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

まず、今年1月15日に開催しました第2回基金運営委員会で、皆様にご審議いただきました森林環境税を活用する事業の平成22年度当初予算につきまして、その概要を報告させていただきます。

22年度は、前年度の当初予算171,585千円に比べまして18%、31,890千円増の203,475千円となっております。学校林整備など教育現場への支援強化、森林保全ボランティアへの木材利用機械の支援、さらには、県内CO2クレジットの認証支援など、新しい取り組みへの支援が、予算増の要因となっております。

続きまして、本年度の事業実績見込みの報告をさせていただきます。

全体といたしましては125,832千円と、本年度最終予算144,183千円に対しまして、87%程度に留まっております。詳細につきましては、事務局から説明させていただきますので、よろしくお願いたします。

最後に、平成23年度以降の取り組みにつきまして、皆様のアイデア・ご意見を頂ければと考えておりますので、忌憚のない、活発なご審議をいただきますようよろしくお願いたします。

7 報 告

1 平成22年度の森林環境税活用事業予算について

（事務局）

【資料をもとに説明】

- ・ 当初予算としては初めて2億を超えた。
- ・ 一部新規として、森林保全ボランティア活動推進事業のメニューに、林内作業車、移動式製材機などの木材利用機械を加えた。

- ・ 新規としては、県内 CO2 クレジットの認証支援、学校林の整備、木質バイオマス利用の環境価値を認証する仕組み作りの支援、環境学習のための機材導入への支援を行うこととなっている。
- ・ みどりの環境整備支援事業の要綱改正（年齢フリー）については、「制度当初の方針を変更するべきではない」との知事の意見があり、認められなかった。
- ・ シカ対策については一般財源で対応することとなった。

(質 問)

特になし。

## 8 その他

1) 平成21年度森林環境税活用事業の実績見込みについて

2) 平成23年度以降の森林環境税の活用について

(事務局)

【資料をもとに説明】

- ・ みどりの環境整備支援事業については、林業労働力の問題や、国の加速化基金事業へのシフトによって苦戦している。100,000千円の当初予算に対して60,000千円程度の実績となりそうである。
- ・ 森林保全ボランティア活動推進事業は、活動フィールドの確保に苦慮した結果、2,560千円の残の見込みである。この問題の解決策として、平成22年度の学校林整備を結びつけていきたい。
- ・ 幼少期における感動体験モデル事業を実施した4団体の活動連携が始まっており、将来、森のようちえんへの取り組みが期待される。
- ・ 間伐材利活用推進事業について、高知ホテルの2階の木質化が取り止めになり、その結果、1,438千円の残となる見込みである。
- ・ 森林吸収量取引モデル事業については、本来、委託する予定であった現地調査業務を県職員が直接行った結果、当初予算4,702千円に対して1,039千円となる見込みである。
- ・ 今年度の実績見込みと、来年度予算の全額執行を考慮した場合、来年度末の基金残は142,380千円となる見込みである。23年度以降は積極財政を展開していくこととする。

(質問及び意見)

(川村委員)

搬出間伐をすることによって森林所有者に還元できるような仕組みづくりができないか。

(事務局)

森林環境税での木材価格の補償は、川下県民のみなさんの理解が得られにくいのではないかと思う。

(窪田委員)

今の国の補助制度は、作業をした者に補助金が支払われる構造になっており、整備を依頼した森林所有者には補助金が支払われることはない。よって、森林所有者にお金が行かないと所有者の施業意欲も減退し、いくら国が新たな制度を構えても森林整備が進まない問題に直面している。しかしながら、政権が変わって、少し見直しの動きが出てきている。

(山中委員)

森林整備が進まないのは、地域に補助制度が浸透していないのが原因ではないか。

(事務局)

森林整備の補助制度が複雑で、森林所有者に理解が得られにくい状況であることは事実だと思う。

(窪田委員)

森林所有者に「儲けるから整備しませんか？」くらいの制度を押し進めないと、この先、山はダメになる。作業する者だけではなく、森林所有者にもお金が落ちる仕組みを作るべきだ。

木材価格の現状を考慮すると、今は木材を出す時期ではない。さらに値が下がる恐れがある。木材を活かす方法としてはバイオマスとして燃やすしかないと思う。県内に発電所等の大量に燃やす施設がないのが残念だ。

(事務局)

木質バイオマス利用の先進地である岩手県への視察を検討中である。木材産業課と連携して取り組んでいきたい。

(松本委員)

高知市春野の障害者スポーツセンターのプールを温水にするために、木質バイオマスを燃やしたらどうか。

海外の最先端の林業を若い世代に経験してもらったらどうか。

(根小田委員長)

国の施策で、過去に木材価格の補償を行ったことがあるか。

(窪田委員)

ない。木材は基準価格を設定することが難しい。

(松本委員)

先日、高知市朝倉のアジロ山の「森のようちえん」を体験したが、障害者のリハビリにも適していると感じた。甫喜ヶ峰森林公園でも実施したらどうか。

(事務局)

県では現在、甫喜ヶ峰森林公園内で候補地を選定し、実施に向けて検討中である。

(川村委員)

中学・高校生くらいの子供にも山で学んでほしい。

(津野委員)

森林教育は、幼稚園児から小学校低学年・高学年と段階を踏んだ教育が大切だと思う。

(窪田委員)

グリーンサンタ基金が行っている教育プログラムを参考にしたらどうか。

(山中委員)

高知県の教育事情は、学力向上の時間を確保するために、山で学ぶ時間を削っているような傾向がある。残念だ。

### 3 おわりに

(根小田委員長)

各委員は、森林環境税を活用する事業について新しい提案がある場合は、随時事務局へ報告するようにお願いします。

以上をもって閉会とする。